「パウロに与えられた務め」　　2019 年 03 月 09 日

コロサイの信徒への手紙 1 章 24 節～29 節　今やわたしは、あなたがたのために苦しむことを喜びとし、キリストの体である教会のために、キリストの苦しみの欠けたところを身をもって満たしています。神は御言葉をあなたがたに余すところなく伝えるという務めをわたしにお与えになり、この務めのために、わたしは教会に仕える者となりました。世の初めから代々にわたって隠されていた、秘められた計画が、今や、神の聖なる者たちに明らかにされたのです。この秘められた計画が異邦人にとってどれほど栄光に満ちたものであるかを、神は彼らに知らせようとされました。その計画とは、あなたがたの内におられるキリスト、栄光の希望です。このキリストを、わたしたちは宣べ伝えており、すべての人がキリストに結ばれて完全な者となるように、知恵を尽くしてすべての人を諭し、教えています。このために、わたしは労苦しており、わたしの内に力強く働く、キリストの力によって闘っています。

「著者」はここから、御子イエスを頭とするキリストの教会に仕えるパウロに成り切って、パウロに与えられた務めについて語っている。「今やわたしは、あなたがたのために苦しむことを喜びとし、キリストの体である教会のために、キリストの苦しみの欠けたところを身をもって満たしています。」福音宣教はキリストから託された使命であり、その使命を全うするためには肉体的、精神的には苦しみを負うことになる。しかし、その苦しみを喜びとすると言っている。パウロはイエス・キリストの使徒とされたことを何よりの誇りとしていた。宣教の苦しみは喜びだったのである。だから、教会のために、キリストの苦しみの欠けたところを身をもって満たしていると言う。キリストの十字架の苦しみに欠けたところがあるはずがない。「欠けたところ」とは、宣教のためにまだ負わなければならない苦しみが残っているということで､その欠けを満たしたいと言っているのである。

「神は御言葉をあなたがたに余すところなく伝えるという務めをわたしにお与えになり、この務めのために、わたしは教会に仕える者となりました」と、御言葉を全て逃さずに伝えることが自分に与えられた務めであると、喜びと誇りをもって言っている。

「世の初めから代々にわたって隠されていた、秘められた計画が、今や、神の聖なる者たちに明らかにされたのです。この秘められた計画が異邦人にとってどれほど栄光に満ちたものであるかを、神は彼らに知らせようとされました。」隠され、秘められていた計画とは、福音の真理であり、使徒とされた聖なる人々に啓示され、この計画が異邦人にとってどれほど栄光に満ちたものであるかを、神は異邦人に知らせようとされた。「その計画とは、あなたがたの内におられるキリスト、栄光の希望です。」神を知らなかった異邦人がキリストに神の現臨を見て、信じ、希望に生きる者に変えられた。パウロたちは、このキリストを、全ての人がキリストに結ばれて完全な者となるように、知恵を尽くして、諭し、教えていると繰り返している。そして、苦労しながら御言葉を宣べ伝えているが、私の力によるのではなく、私の内に力強く働く、キリストの力によって闘っていると語っている。パウロは、ローマ書 15 章 17 節～19 節 a で、「神のために働くことをキリスト・イエスによって誇りに思っています。キリストがわたしを通して働かれたこと以外は、あえて何も申しません。キリストは異邦人を神に従わせるために、わたしの言葉と行いを通して、また、しるしや奇跡の力、神の霊の力によって働かれました」と書いている。